

学校関係者評価報告書

【評価対象期間】 自：2018年4月1日
至：2019年3月31日
【評価基準日】 2019年4月1日

学校法人 麻生塾
麻生工科自動車大学校

目 次

I. 学校関係者評価の概要と実施状況	- 3 -
1. 学校関係者評価の目的と基本方針	- 3 -
2. 学校関係者評価委員名簿.....	- 3 -
3. 学校関係者評価委員会の実施状況	- 3 -
4. 学校関係者評価委員会の実施方法	- 4 -
5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方	- 4 -
II. 学校関係者評価委員会報告.....	- 4 -
1. 重点項目について	- 4 -
2. 基準項目について	- 5 -

I. 学校関係者評価の概要と実施状況

1. 学校関係者評価の目的と基本方針

1) 目的

①卒業生、関係業界、職能団体・専門分野の関係団体、高等学校、保護者・地域住民などの学校関係者が、麻生工科自動車大学校の自己点検・評価結果を評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高める。

②学校関係者から、学校運営・教育活動の現状における課題について助言を得ることで、学校運営の継続的な改善を図る。

2) 基本方針

学校関係者評価は、自己点検・評価報告書を基に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

2. 学校関係者評価委員出席者名簿

区分	氏名	所属(役職)
業界関係者	堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 (部長)
業界関係者	吉岡 孝善	福岡トヨタ自動車株式会社 (次長)
業界関係者	藤田 一	ダイハツ工業株式会社 (副所長)
団体	寺崎 浩二	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 (課長)
高校	大和 豊	学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校 (校長)
地域住民	村上 伸二	東比恵2丁目町内会
卒業生	時松 真秀子	平成23年度 1級自動車整備科 卒業生
保護者	高橋 一成	1級自動車整備科の保護者

※区分別、五十音順、敬称略

3. 学校関係者評価委員会の実施状況

実施日時：2019年6月19日(水) 15:00 ～ 16:30

場 所：麻生工科自動車大学校 7階講堂

4. 学校関係者評価委員会の実施方法

学校関係者委員の皆さまに、2018年度の実績に対する自己点検評価の結果を学校から報告し、評価結果に対する意見をいただく。

5. 学校関係者評価（自己評価結果）の評価の仕方

2018年度の自己点検・評価報告書に基づき、基準項目の自己評価結果および課題・解決方向について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

- (1) 自己評価結果の内容が適切かどうか
- (2) 今後の解決方向が適切かどうか
- (3) 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか
- (4) その他、学校の運営に関する助言

II. 学校関係者評価委員会報告

1. 重点項目について

【取り組み状況について】

①「学校の教育理念」の明文化

学校法人の教育理念・目的・育成人材像については、明文化されている。

②資格試験および合格率の向上と取組みの成果を上げる

国家1級自動車整備士試験について、近年国家試験の状況に関し、他校へのヒアリングや傾向分析した上で対策を施した。

③留学生に対する相談体制の整備

本部の留学生担当部門と連携し、ビザの更新手続きなどに関する説明会を定期的を実施し、在校生アンケートを実施し、学校生活及び配布資料や運営方法など授業についての満足度調査を行った。

【委員からの意見】

- ・インターネットに公開されている麻生専門学校グループ13校の自己点検結果を見せて頂き、麻生工科自動車大学校の評価が特に優れている印象を受けた。(A評価5項目、B評価1項目以外は全てS評価)ただ、見方を変えると「評価が甘いため、改善の機会を失っている」ともとられる。評価基準を明確にされたのは良い事だが、評点の付け方は、麻生グループ横並びで整合できているのか。また、他グループ校の評価結果や段取りをベンチマークしている状況にあるかを明示して欲しい。

【課題】

- ・今年度まで評価者の判断による所が大きかった。

【改善の方法】

- ・次年度より評価部門にて評価を行う予定となっている為より整合性を図る場となる予定。
- ・グループ校内の成果や取り組みにおいても同様の部門にて共有を図る予定にある。

2. 基準項目について

基準 1 教育理念、目的、人材育成像

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・建学精神に基づき、教育理念、目的及び育成人材像を定め、ルールブック、朝礼での唱和を通して、学校構成員に周知を図っている。
- ・アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについて、学科毎のカリキュラムポリシーを見直し、体系的に周知できるよう整備を行った。

【委員からの意見】

- ・社会のニーズに応じた人材の育成が図られており、評価は適切だと思われる。
- ・自動車の技術者育成する学校にふさわしく、今の社会に求められる技術だけではない人間力の育成も理念とされている。また、適切なツールや機会を設け周知・公表も積極的に行われている。
今後も継続して周知徹底及び公表を行い、更に社会や学生に浸透することを期待する。
- ・創設から11年を向かえ、様々な取り組み等から教育力も更に向上していると感じる。教育理念に基づいた専門性の高い、感謝心や社会性をもった学生を輩出し、技術者を育成する専門学校としての社会的責務を果たしている。今後も継続して周知を行い・ツールや資料の整備を行うことで、学生や社会にさらに浸透することを期待する。
- ・自動車整備や設計分野の専門学校として設立後10年を超え、社会的役割を果たしていると感じている。
今後も法人としてはもちろんだが、社会や地域に貢献していける人材育成をするための邁進を期待する。

【課題】

- ・Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透

【改善の方法】

- ・「学生便覧」またはホームページ上でもこれまで同様に明示し、学生・保護者へ積極的に浸透を図っていく。
- ・職員に対しても、朝礼、定例会議等において周知を徹底する。
- ・Web活用により、学生・保護者・関連業界等への浸透を促進していく。

基準 2 学校運営

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・麻生塾本部の運営方針を共有策定し周知している。
- ・学校業務については学内の事務局の他にグループ本部内に人事、経理、留学生窓口など様々な支援組織が設置され、十分に機能している。

【委員からの意見】

- ・学校運営が適切に行われていることが理解できた。
- ・情報公開も問題ないと判断した。
- ・学校組織として方針を適切に策定し、多くのシステムを活用し周知及び管理されている。定例会議も実施されており学内の意思疎通が出来ている。
- ・学内各部署の業務連携や教員同士の連携は、学生満足度に直結する非常に重要な要素である中で、定例的な会議が実施されており、教員同士の意思統一や情報共有ができています。また、様々な業務ツールを活用し、業務の効率化が図られている。今後も業務ツールを精査し、更なる効率化を図っていただきたい。
- ・教職員の意思統一がなければ、すべての計画が満足に機能しなくなると感じる。是非、貴校が目指す人材育成像に向けて教職員の自己研鑽も含めて計画的に実施してもらいたい。

【課題】

- ・現状特になし

【改善の方法】

- ・今後も定例のリーダー会議や全体会議といった意思決定システムやグループ内の共有サーバーを有効活用し、業務の効率化を継続する。

基準 3 教育活動

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・学則及び成績評価、進級および卒業に関する規定内で教育目的および育成人材像に基づき進級・卒業要件を明示した上で、学校構成員に周知している。
- ・教育課程の編成、実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成している。
- ・授業評価においては全教員及び非常勤講師を対象に年2回教師アンケートを実施。結果については本部が集計し、分析後に各校へ結果を通知。その後部門長から各教員へフィードバック及びアドバイスを実施している。

【委員からの意見】

- ・専攻分野に関する企業、関係施設等や業界団体と連携して教育課程の編成を行う中で、国家試験にとらわれない業界ニーズを踏まえたカリキュラムの内容および適切な時間配分により十分な学習指導を行っており、特に実走行を交えた学習方法は高く評価できる。但し、現代の市場に合わせた教育の観点から見ると、2級自動車整備科のカリキュラムにハイブリッドカー等の今の自動車についての内容が少ない感じも受けるので、教育課程編成委員会内で協議して欲しい。
- ・自動車工学機械設計科の車両製作実習評価においては、学生フォーミュラ大会による外部専門家からの評価として入る点は、公正な評価となるだけでなく学生のモチベーション向上にもつながり評価できる。
- ・企業の講師による専門分野教育や職業理解セミナーは、業界の特徴や求める人材などのリアルタイムな情報を把握する上で評価できる取り組みである。今後も計画的に実施して欲しい。また、成績評価についても明確化され、統一性のある平等な評価が出来ている。
- ・教員の教育力、資質向上については、国家試験や検定試験、教科書の内容だけにとらわれない様、企業との交流（研修など）機会を増やし、多くの教員が最新の技術や業界動向、専門知識の習得ができるよう努めてもらいたい。
- ・業界のニーズに応じて教育課程を体系的に編成している点は大変素晴らしい。
教師アンケートやチューター制度が実施されていることについても教職員による教育活動を向上させる良い手段かと思うので、今後も継続してもらいたい。

【課題】

- ・教育課程の編成、実施方針に基づき、業界のニーズを踏まえ、実践的な職業教育の視点に立った教育内容を適切に提供していく上で、時代に応じたカリキュラムの見直し及び、教材、設備の整備が適宜必要。
- ・企業団体が主催する教員向けの研修参加。

【改善の方策】

- ・学校関係者評価委員や教育編成委員にて企業・業界団体の意見を取り入れ、継続してニーズに合った教育課程を編成、実施していく。成績評価についても期末試験や授業内テストの内容についてまで意見を頂き、さらに評価精度を上げていく。
- ・2019年度においては企業・団体にて実施している研修制度の情報を収集し、教員へ積極的な参加を促す。
- ・2020年度においては水曜日の午後時間を職員の研修時間として活用を検討する。

基準 4 学修成果

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・年度開始前に学科会議で前年度の結果や評価を考慮し、学生に関する目標設定を行い、年度初めの全体会議で教職員が情報共有、周知できるようにしている。
- ・卒業生の専攻分野における社会的評価については毎年企業に入社後1, 3年目の卒業生を対象としたアンケートを実施し適応性や効果を確認している。

【委員からの意見】

- ・課題に「出題傾向が変わった事でここ数年合格率低迷」とありますが、他にも低迷の理由はないのか。
- ・社会に出るための資質を身につけて、社会で能力を発揮できる人材を育成する方向性が示されている。
- ・年度初めに学内全体で指導目標の共有を図り、取り組む体制づくりが評価される。
- ・就職指導については、担任と就職担当者が定期的に学生、企業情報を共有し、斡旋を進める体制が確立しており、就職率や内定企業などから見ても、継続して高い実績を残しており評価できる。
- ・早期退職は自動車整備業界が抱える問題であり、企業側としても問題視しており、早期離職セミナーの実施はとても評価できる。積極的に卒業生からの意見を回収し、内容をフィードバックできるセミナー構成にすることで更なる効果が期待できるように思う。
- ・自動車整備士試験合格は学生・学校にとっても非常に重要な学修成果と感じる。
目標達成のための教育活動を継続して実施し、全員が満足する結果が出るように改善に努めて欲しい。

【課題】

- ・国家1級自動車整備士試験については出題傾向が変わった事でここ数年合格率の低迷。
- ・内定後、整備士の仕事内容についての理解不足による早期退職者も出ている。

【改善の方法】

- ・近年の傾向を分析した上で対策を施し、整備知識（診断能力・新技術）について理解の充実を行うと共に学生のモチベーションアップを図る。
- ・早期離職防止の取り組みとして企業や業界団体からの講演や研修会の機会を設けるなど学生の職業観の醸成を図る。

基準 5 学生支援

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・学生の修学支援や進路支援については担任及び就職専任スタッフにより適切な支援を行っている。
- ・学生の健康管理を担う体制として定期的な健康診断の実施やAEDの設置に加え、学生の生活環境への支援として直営、提携寮の設置を行っている。
- ・保護者に関しては担任を軸に保護者会や3者面談などを実施し、連携を取っており、卒業生・社会人に関しては校友会組織の設置や再就職支援、国家試験対策といった体制を整備している。

【委員からの意見】

- ・カウンセラー及びハラスメント委員を設置し、適切に学生相談を行っている。
- ・いじめが表面化しにくい「現代のいじめ」が社会的に問題視されている中、カウンセラーの設置やいじめ防止に取り組んでいることは、高く評価できる。また、部活などの課外活動についても積極的に行っており、学生満足度向上という面においても十分な効果があるように思う。今後一層安定した学生生活が送れるように支援をお願いしたい。
- ・今後は留学生の入学者も増えると想定されるのでより多様性のある学生の支援体制の確立を願う。
- ・近年 自動車離れが加速し、モチベーションが低い学生が多いと聞きます。入学した学生への支援をしながら目指す就職先への職業理解を十分に実施してもらいたい。

【課題】

- ・成績優秀者を対象とした学校独自の学費免除制度の告知。

【改善の方策】

- ・制度自体の存在や対象学生を学内全体に周知する。報奨内容についてはより学生のモチベーションアップにつなげられるものを検討する。

基準 6 教育環境

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・法令に則り、教育上の必要性に対応した施設、設備を整備し、学校設備、教育備品、教具の一覧表及び点検表で管理体制の組織図維持・管理、安全・衛生を確保している。

【委員からの意見】

- ・学外での実習や、インターンシップを通じて更に能力アップを図っており、そのような体験活動は重要だと思われる。
- ・学外研修について、学年ごとに慣習化されており、年度ごとに差のない教育が実施されている。設備については、技術教育上のものについては充実しており、特に実走行できる環境を整備されているところは大変良い。図書室の整備が遅れているようだが、図書室の設置を行うことが目的とならないよう、保有する図書の内容においても十分配慮願いたい。
- ・運営上、自動車関係の施設・設備の充実化は、難しい点も多く存在すると思うが、計画的な運営を実施し、整備を行ってほしい。
- ・基準3 中項目3-2【総括】において「企業へのインターンシップについては全学科にて定期的に実施」と記載されているが、基準6 中項目6-2【総括】では、2級自動車整備科のインターンシップについて記載がないので内容を統一していただきたい。
- ・教育設備に関しては学校運営上難しい側面もあると思うが、教育環境だけでなく運用方法について統一した運用をお願いしたい。
- ・外部講師による研修やインターンシップなどは学生にとっても刺激的な授業かと思う。目的や意義を十分理解させたいうえで実施するとなお充実した教育となると思うので適宜実施して欲しい。

【課題】

- ・学生にとっての良い環境を考えると、図書室の機能が不十分である。

【改善の方法】

- ・学内の図書室・図書コーナーについては所定の場所を検討の上決定する。また保管する書籍については保管対象の書籍を新規購入し既存のものを選別する予定。

基準 7 学生募集

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を策定し、募集要項やホームページを通じて学校構成（教職員および学生等）に周知し、社会に公表している。
- ・募集活動においても、パンフレット、ホームページを通じ検定合格状況、就職状況などの教育成果を正確に伝えている。

【委員からの意見】

- ・日本人入学者が減少傾向で、入学者選抜方法については必要に応じて見直しを図る必要性を感じているようだが、業界で必要とされる人材の質はあまり変化ないと思う。学生募集が困難な状況であるが今後も適切な入学者選抜を継続していただきたい。
- ・日本人入学希望者が減少傾向にあるなか、適切な募集活動を行い、教育成果をしっかりと伝えていくことがもっとも効果的であると感じる。しっかりとした結果を伝える事が出来るように、各部門（資格・就職・試験）の定期的な体制の整備及び実施内容の精査を行っていただきたい。その為にも現場（企業）からの情報収集と時代に合わせたカリキュラム編成をお願いしたい。
- ・留学生が増えてきている現状で授業の質を担保できるカリキュラムの構築と適切な学生募集が必要。
- ・国際自動車整備科の設置に伴い国際色がさらに増したと思われるが、日本学生の心情はいかがか。
- ・高校時の学校生活と環境の違いが大きく、心情の変化が多少あるかと思われるので、アンケート等の実施をして学生の心理状態を確認してみてもどうか。

【課題】

- ・留学生対象の新設学科の設置に伴い、多様な学生の受験が見込まれる為、入学者選抜方法については必要に応じて見直しを図る必要がある。

【改善の方策】

- ・留学生在校生向けに満足度調査アンケートを実施し、その結果を分析して次年度の入学選抜方法に活用する。

基準 8 財務

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立している。
- ・予算計画は有効かつ妥当なものとなっており、予算執行に伴う効果を分析・検証する仕組みの確立がなされている。また、財務情報公開の体制を整備し、適切に公開している。

【委員からの意見】

- ・麻生塾としての長い歴史により経営基盤が安定していると判断でき、十分な財政的基盤を確立していると思われる。
- ・外部監査員によるチェック機能も高く評価できる。今後も安定した教育活動を遂行するため、財政基盤の確立や体制の整備を行っていただきたい。
- ・教育活動を安定して遂行するために今後も継続して財政基盤の確立や体制の整備 維持をお願いしたい。

【課題】

- ・現状特になし

【改善の方策】

- ・今後も継続して財政的基盤を確立していく。

基準 9 法令遵守

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・法令等遵守に関する啓蒙や教育が教職員に対して適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っている。
- ・法令改正等に応じた法令等遵守規程類の見直しが適時適切に行われ、法令等遵守義務や違反に対する処分等が規程の中で明確にされ、問題発生に対応する通報システム等の体制も整っている。

【委員からの意見】

- ・規定、マニュアル、ルールブック等、しっかりとした整備がされていることに加え、教職員に対して啓蒙や教育が適切に実施され、教職員は法令遵守を理解し、規定に従っていると思われる。
- ・教育機関として、学生、職員に関わる規定が必要かと思う。
- ・コンプライアンス遵守を理解し、運用しているとは思いますが、全教職員に対して、定期的かつ計画的に法令に関する啓蒙や周知徹底が重要と感じる。今後も規則の明確化、体制の整備を計画的に実施していただきたい。
- ・コンプライアンス遵守に関しては当然適切に運用されていると思うが、定期的に研修会等で周知徹底することが重要。今後も相互の確認と点検の重要性を確認と点検の重要性を認識させ、規定に基づく業務の徹底を図って欲しい。

【課題】

- ・現状特になし

【改善の方策】

- ・法令の遵守については、引き続き適正な運営を図るためにも、教職員会議等で周知徹底を図っていく。
- ・教職員に対しては、「コンプライアンス」感覚を磨くためにも、相互の確認と点検の重要性を認識させ、規定に基づく業務の徹底を図るための体制の整備を行っていく。

基準10 内部質保証

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、重点項目を定め課題解決に取り組んでいる。
- ・学校関係者評価の実施体制を整備し、学校関係者評価を実施し、意見を集約し、改善の取り組みを行っている。

【委員からの意見】

- ・10-1-1が「A」評価であるのに、課題は「特になし」となっている。A評価とした理由が課題であると認識して改善した方が、次に繋がると思われる。
- ・自己点検・評価を麻生塾全体で実施されている。課題については優先順位を決め解決に取り組んでほしい。
- ・自己点検については、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会などから意見を集約し、適切な取り組みが実施されている。
- ・麻生塾全体の組織レベルで実施されているが、個人レベルでの自己点検も積極的に取り組んでもらいたい。
- ・今後も、評価内容等の結果について教職員全員にフィードバックを行い、教育力・運営基盤の向上に努めていただきたい。
- ・学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会などから意見を集約し改善の取り組みを行っている。ただ、国際自動車科設置に伴い、日本人、留学生が同じ環境下で学ぶ事になるが、教育の質が担保されるカリキュラム制度の確立をお願いしたい。

【課題】

- ・現状特になし

【改善の方策】

- ・自己点検や自己評価の過程で、徹底した点検を心掛け、事前防止を図るとともにその運用と管理に細心の注意を払っていく。

基準 1 1 社会貢献・地域貢献

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・公共的な機関として、日本赤十字等団への支援や、国内外からの教育施設見学受入など積極的に社会貢献を進めている。社会貢献・地域貢献を行っている。
- ・1級自動車整備科においては3年次に、学生の地域貢献として、教育内容を生かし、小学生を学校に招いての職業体験イベントを開催している。

【委員からの意見】

- ・課題に「ボランティア活動の単位認定」について、本来、ボランティア活動は学校の単位とは別な話であり、麻生塾の校訓とお聞きする「無私」の心から離れる取り組みではないか。
- ・専門教育のため授業数が多い中で、実施可能な活動を見つけ実施されており、前向きな姿勢を感じられる。
- ・計画的に小学生対象の整備士の職業体験を実施せれていることは、社会貢献や学生のコミュニケーション力向上の面において評価できる。学生全体でも献血など実施しているので地域貢献度は高いと感じる。
- ・今後は現在行っている活動に留まらず、対象範囲を広げる取り組みを検討いただき、積極的に実施していただきたい。
- ・大学によっては年間を通して社会的貢献のスケジュールをたて、単位認定している学校が多い。御校でも検討いただき多くのボランティア活動を通して教育の一環として確立してほしい。
- ・校区では、夏祭りや防災訓練などの行事があるので夏祭りではステージイベントや展示等の検討を出来ないか。

【課題】

- ・ボランティア活動の単位認定についての定義。

【改善の方策】

- ・今後は単位認定外のボランティア活動も視野に入れ、新たな取り組みを検討していく。

基準12 国際交流

学校関係者評価結果： 適

【取り組み状況】

- ・留学生の受入れ、在籍管理等において適正な手続きを行っている。
- ・留学生に対する相談体制として、各クラスに担任及び担当主任が在籍しているものの情報収集するツールとしては全学生を対象に在校生アンケートを実施しているにとどまっている。

【委員からの意見】

- ・法律の施行もあり、今からの日本において国際化は避けて通れない現状といえる。そうであれば貴校の教育力で積極的な支援をしていくことが評価につながると思う。
- ・留学生の受入れ、在籍管理については有資格者も配備されており適切に運用できており、留学プログラムの説明会に加え海外研修旅行により海外への留学支援は適切に且つ効果的にできていると思われる。
- ・今後増加傾向にある留学生の支援体制を早期に実現していただきたい。
- ・留学生の受け入れ、在籍管理については、適切に管理できていると思われる。
- ・今後は、生活指導等で担当教員（担任）の負担が大きくなることが予想される。
新規開設した留学生学科の運用ノウハウを活用して担当職員へ負担が集中しないような体制作りを早期に実施していただきたい。
- ・日本人学生についても、自動車という海外でも活用可能なフィールドがあるので、グループの留学制度を活用する機会を創出して欲しいと感じる。
- ・母国を離れ、留学することは不安な要素が大きいと思われる。留学してよかったと思ってもらえるような様々な支援を実施し、成長できる環境を整えて頂きたい。

【課題】

- ・在校生アンケートの実施以後の取り組み。

【改善の方策】

- ・今後は、留学生が増えることを鑑みて、留学生向けに満足度調査アンケートを実施し、その内容を反映させた上でより良い支援を図っていく。